

開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興 モデルの構築とその普及

～商品化と販売を通じた生産者の生計向上と農業大学における実践的な研究・教育体制の構築～

名古屋大学農学国際教育協力研究センター

伊藤 香純

【活動地域】

カンボジア国、タケオ州、プノンペン特別市、シムリアップ市

【概要】

カンボジアにおいて農業分野の基幹大学であるカンボジア王立農業大学（RUA）が、自国の農産物加工品産業振興に貢献できるようになるために、伝統産業である酒造農家での実践に基づいた教育・研究体制を整備・強化し、これをモデル化する。また、この取り組みによる成果・教訓を、タイの農業協同組合省農地改革局等の既存のネットワークを通じて東南アジア諸国に広く発信し、特にカンボジアと同様の問題を抱えるラオス及びミャンマーに、大学と連携した農産物加工への取り組みをモデルとして普及する。

【目標】

平成 20 年度及び 21 年度事業における活動成果に基づき、下記の活動を実施することで「開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデル」を構築する。

1. 酒造農家グループが生産した米焼酎の商品化・市場流通の実現と生産者の生計向上
2. ハム・ソーセージなどの他の加工品に対する試行活動の実施
3. RUA における“農業の現場における実践を通じた研究・教育の体制”の構築
4. ラオス国立大学農学部との合同による農村調査の実施
5. カンボジア・ラオスでの取り組みの成果・教訓の近隣諸国への発信

【体制】

本事業は、名古屋大学農学センターを中心として、東南アジア及び国際協力に関する豊富な経験と見識を持つ同大学大学院生命農学研究科及び国際開発研究科、香川大学、阪南大学、技術者の連携によって形成される日本側プロジェクトチームと、RUA を中心とするカンボジア側プロジェクトチームが、それぞれの知と技を持ち寄り、カンボジアの農村における伝統技術を重んじた適切な技術・改善策を見出し導入の支援を行う。

【成果物】

1. 開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興のモデル構築のノウハウに関する報告書
2. RUA における実践的な教育・研究体制の導入とその影響に関する報告書
3. 近隣諸国における普及活動の成果・インパクト・課題に関する報告書

『開発途上国における拠点大学を中心とした農産物加工産業振興モデルの構築とその普及』

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター

目的

カンボジア王立農業大学と協力し、農産物加工業を推し進める！

対象地域：カンボジア

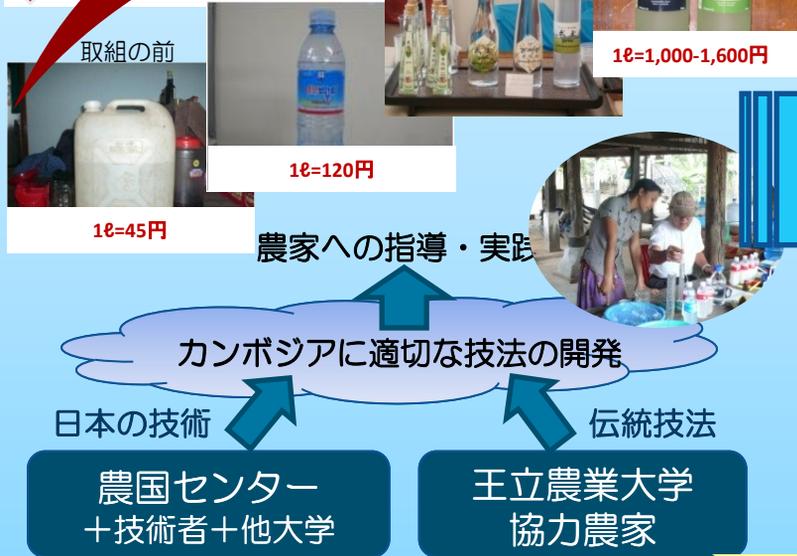


タケオ州で実施

活動

大学による農産物加工品の品質向上への取り組み

付加価値による農家の所得向上



農業大学・農業省・商業省の職員による現場の視察・勉強会

カンボジア国内への普及推進



他の加工品への応用(ソーセージ作り)

成果

農業大学を「農家と消費者の懸け橋」として育成！

この取り組みをモデル化し、同様の問題を抱える近隣諸国への普及を推進する